

会長
挨拶

重要な「節目」の認識

力を合わせ 大胆に提言や行動を

初春のお慶びを申し上げます。旧年中のご交誼に深謝し、本年も一層のご芳情をたまわりますよう新年のご挨拶を致します。



著者 浅沼勉氏（1912～1994）「歌集潮騒以降」より ※みおや「御祖」の敬称

火の島の乏しきに堪へて生きつぎし みおやを偲ぶ 生きねばならぬ
後世の衆生島焼けを恐るなかれ 神もまた 共に苦しむと知れ



幾度かの噴火溶岩流と今回の泥流にも被害を免れた椎取神社奥殿

千人超が過酷な状況！
三宅島の噴火災害、いまだ止むことのない火山ガス放出被害から本年6月で10年目。また全島避難指示解除から2月で満

5年となります。本年は、いずれにしても重要な節目を迎えているとの認識が重要でしょう。私たち三宅島ふるさと再生ネットワークも皆様の心温まるご支援を頂き

活動を続けております。「帰りたくても帰れない島民」は、高濃度地区の半数近くの住民、火山ガス被害と教育事情により帰島できない子どもと家族の分散、就労場のない雇用事情、喘息等の高い感受性者などの健康問題による避難中の島民。一方で治療と加齢、家族事情や家屋修繕費等の経済的困難、仕事等の理由で帰島をあきらめて都営住宅や親族のもとで望郷の思いを秘めながら細々とした生活の道を選ばざるをえなかった在京島民も増えるなか亡くなられる方々もいます。これらの事情により、

噴火災害前の人口は、3千829人であったが、昨年10月1日現在で2千824人（1743世帯）に減少しています（これは登録人口であり内地と島を行ったり来たりの人も多く生活実在数はもっと少ない）。避難前と比較しても千人を超える島民が避難継続中または帰島を断念しているのです。この人たちは、救済策もなく置き去り状態であり過酷なものです。

行政と被災者の認識に隔たり

今回の噴火災害は、何度も繰り返された噴火と異なり、いかに傷跡が深く回復困難であるかが、島民の生活や産業再生の面でも明らかとなっているのです。しかし、残念ながら都・村などの行政と火山防災・医療・災害専門家と被災者である私たちとの間には、三宅島の将来に対する危機感、災害特に火山ガスの実態認識には大きな隔たりがあります。従って、被災者島民の求めるものとは必ずしも一致していない。そのため島の真の再生・復興を遅らせ困難にしていると感じ不安を持っている島民の声をよく聞きます。このままでは、三宅島は衰退縮小する一方です。節目の年に当たり、今後は力を合わせ、この溝を埋めるために大胆に切り込み、提言と行動を行っていきましょう。皆様のご多幸を祈念すると共に、ご協力、ご指導をお願い致します。

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
(本部) 〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

〇帰島5周年新年会

日時 2月6日(土) 18時～

場所 ビストロおきみくら

☎ 03 (5715) 3688

品川区南品川 3-5-3

青横ビル3階・京浜急行

青物横丁駅下車近く

会費 一人 5,000 円

※マスターは三宅島出身で

料理自慢です。

〇ご寄付のお願い

郵便振替口座

口座番号：00120- 3-545036

口座名称：三宅島ふるさと

再生ネットワーク

事務局：あすなろ保育園内

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿 25-6

電話・FAX 03(3963)5697

担当 横山

帰島後5周年の思い

支援の輪 さらに大きく



未だに残る高濃度地区を示す看板



今回も盛況だった神楽坂青空フェスタ



第一陣の帰島式 (05年2月)

2000年噴火後、4年半に渡る全島避難支持が解除されてから5年が経つ。長い時間の中でマスキミの報道などが少なくなり、帰りたくても帰れない在京の方々や島の高濃度地区住民、高齢者の方々の声を聞いてきたふさとネットのスタッフが、5周年を迎える思いや新年のご挨拶を綴った。

副会長 酒井一豊

訪問活動など今後も

皆様、明けましておめでとうございます。私たちが避難解除から早くも5年になりました。私は、在京者の皆様の訪問活動をしてお



れからも皆様のお力になりますように頑張ります。今年も良い年でありますように、お祈りします。皆様もお体を大切に。

事務局長 横山美紀

皆様の声を大切に



関係者の皆様、新年明けましておめでとう

ございます。私は、昨年の夏に向上高校やDTPAの皆さんと三宅島を訪問し、元気に育つ明日葉、素晴らしい景色、活気溢れる富賀神社大祭に感動しました。その反面、火

山ガスの影響で主人がいなく増々劣化していく家屋を多く見て、一人でも多くの皆様が、かつての生活を取り戻せるよう協力しようという気持ちで新たにしました。微力ではありますが、皆様の声を大切に、努力していきます。



副会長 池田金好

様々な問題 解決のために

在京者の皆様、明けましておめでとうございます。私たちが帰島してから5年経ってしまいました。現在、砂防ダムが完成し、都道の地下を流す工事を何カ所かで

荷でできるような物はできないのでガスに強い作物を農業改良普及所で研究しています。何年かかかるか見通しは立っていません。私も佐藤会長と人口透析を島の診療所で行うようにと署名運動を行い、村会議員に提出し、議会で取り上げるようにお願いしました。在京者の皆様が早く帰島できることを願い、微力ながら働く所存でございます。これから寒くなるので皆様も健康に気をつけて下さい。そして今年も帰島できるように祈っています。最後に、酒井副会長とどこかでボウリング大会でもできたらいいなと思っています。

心に届いた三宅の里芋

在京者からお礼の言葉 次々に

前号で、ふるさとネットに三宅島ファミリー農園から届いた里芋を在京者の方のお宅に届けたことをお伝えしたが、それに対するお礼の声が、その後も手紙や電話でふるさとネットの事務局等に寄せられている。その中からは在京の方々の望郷の思いも伝わってきた。

前号でも、在京者の皆様からの里芋のご寄付に対するお礼の便りをご紹介しましたが、その後もたくさんのお便りを頂きましたので、その一部を掲載します。

◎里芋、とてもおいしかったです。普段も食べられたらいいのにね。いただいてすみません。三宅島の大変さ

と、また私たちはこれから東海地震が来るので、反対に島の方が怖くなるのかと思ったりします。

島の自然の回復などテレビで見たりしています。一度でもいいので行きたいと思っています。

◎とてもおいしく頂きました。いろいろな食べ

方で料理しました。5年近く東京の内地にいたのに私は何もしてあげられなかったことをすまなく思っています。まだ大変なことがたくさんあるのとこと、よい日々を過ごして下さい。

電話でも、たくさんのお礼の声が届きました。◎里芋、大変おいしく頂

訪問員 山尾啓予 (DTPA) 伝わったオーナーの気持ち



私は9月13日に東村山市に訪問活動へ行き、ファミリー農園からふるさとネットに届いた里芋を、在京の方にお渡しし

ました。その方は、「まあ、ありがとう。三宅島の里芋はとっても美味しいのよね」、そう言って笑顔で受け取ってくださいました。

私は、本紙の取材でファミリー農園のオーナーに、里芋を在京の方々へ贈ろうと考えた経緯をお聞きしていま

した。(24号4面に記事)手渡したときの笑顔を見たとき、「今も、帰りたくても帰れない人のことを考えたら、せめて島の味を楽しんでもらいたいと思った」というオーナーの気持ちが伝わったと感じました。さらに今回ネットに届くお礼の言葉を見て嬉しくなりました。このような温かい心と心の繋がりが、今後も続いてほしいと思います。

住民懇談会を開催 様々な分野で活発な意見

三宅村は平成21年度住民懇談会を、12月7日の午後6時より、三宅村コミュニティセンターで開催。村長から来年度予算に意見を反映したいと挨拶があったのに対し、会場からは、活発な意見が出された。

主な意見として、会場が一カ所では不十分、新型インフル対策、光ファイバー導入見通し、交通公園問題、南方竹増殖、深夜のガス警報の中止、水道水改良、排水問題、釣り場の整備、環境保全条例など。

高濃度地区 窮状の訴えも

きました。火山ガスの影響もある中、こんなに立派でおいしい里芋ができるなんて、本当に驚きです。自然の復活しようとする力は本当に素晴らしいですね。里芋も島の食材もとてもおいしいものばかりで、まるで火山ガスの影響がうそのよう

す。あの美しい島の景色が忘れられませんか。またぜひ島へ行きたいと思っています。◎こんなにおいしいお芋を育てて下さりありがとうございます。とても頂きました。三宅島は本当に良い島です。ますます良い島になりますよう、お祈りします。

特に、高濃度地区問題では、佐藤会長が高濃度地区廃止を前提として、火山ガス安全対策見直しをしなければ住民の高齢化と生活破壊で再起不能になる。観光や空路にも悪影響を強調、人工透析早期設置、モーターフェスタにも言及した。

高濃度地区住民からも窮状の訴えがあり、高濃度地区住民懇談会の開催を求めた。

お便り紹介

町村啓志一橋大学教授から会長にお便りを頂きました。過分のお言葉ありがとうございます。

拝啓 この度は調査の準備段階から大変お世話になり、一同本当に得難い経験をすることができました。厚く御礼を申し上げます。

とりわけ今回、直接お話をうかがうことができ、大変感銘を受けました。ご苦労されたこれまでのご経験が、その後のご活躍に対してさまざまな形で生かされてゆくこと、私たちにとても大きなヒントとなりました。

今後、まとめの作業が続けてまいります。引き続き多くのことを学ばせていただければと存じます。皆さまのご健勝と一層のご活躍をお祈りさせていただきます。敬具

◎ご寄付者名

坂本健様、小久保泰枝様、大石真様、神谷健一様、井上教子様(10月16日～12月15日)ありがとうございました。

三宅に關し、「第一次産業の立ち直りに力を入れなければ、観光客呼べない」と指摘。永井さんは「報道されているのはトライアスロンなど復興の様子だが、実際はまだ苦労を抱えている人も多くある」と訴えた。

新年明けましておめでとうございます。三宅島新報の発行も25号となりました。昨年からは、訪問活動も開始し、在京者の方々と定期的にお話ししています。訪問先の数を増やすのはなかなか難しい状況ですが、新報の編集作業と共に、今年も頑張っています。よろしく願いいたします。(DTPA一同)

在京者等が現状検討

足立区で講演会開催



島の将来について熱い思いが語られた

今回の三宅の声を知ってほしいという挨拶をした。その後、ふるさとネットの副会長で足立三宅会会長の池田金好さんと、足立三宅会の杉山裕子さん、当地区社協の職員だった永井章子さん、宮沢

足立フォーラム21主催の講演会が11月19日に足立区マルイで行われ、足立三宅会の池田金好さんなどが、現状の問題点などを話した。

NPO足立フォーラム21が主催、福祉法人足立区社会福祉協議会が共催する、「三宅島の現状と将来」をテーマにした講演会が、11月19日に足立区マルイで行われた。

30人が参加した会では、まず足立フォーラム21理事長の渡辺喜一郎さんが「噴火からあしかけ10年、まだ復興の半ば、

道成さんが、現状の問題点や島の将来などをテーマに話した。

家族分断の報告も

この中で、子どもと帰省中に噴火に遭い、島に

戻れなくなった杉山さんは「夫は島に残り、妻や子どもは東京で生活するという家族分断が続いている家庭があることを知ってほしい」と話した。

また池田さんは今後の

被災地市民サミット長岡で開催



「被災地市民サミット」の円卓会議

新潟県中越地区の被災地である長岡市の長岡技術科学大学で10月17日に行われた国際シンポジウム「被災地市民サミット」の第2回大会に、ふるさとネットを代表して、伊藤奈穂子世話人が参加した。

また今大会では、ネットの協力者である及川裕子先生、小原真理子先生、尾山とし子先生が、島で健康教室を実施してきた経験などをもとにした論文、「三宅島に帰島した高齢者の特性を考慮した支援活動の実際」に関する発表を行なった。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。三宅島新報の発行も25号となりました。

6分科会で議論 円卓会議で問題意識を共有